

# エコアクション 21

## 環境活動レポート

2015 年度版

(2015 年 4 月～2016 年 3 月)



～自然随順～

西部電機株式会社

2016 年 7 月 1 日発行

# 目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲(認証・登録範囲)	2
3. 環境方針	3
4. 環境目標	4
① 全社	4
② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	5
③ 支店・営業所・サービスセンタ	6
5. 環境活動計画	7
6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性	9
7. 環境目標の実績と環境活動計画の取組結果及びその評価、 今後の取組	12
(1) 二酸化炭素排出量の削減	13
(2) 廃棄物排出量の削減	14
① 一般廃棄物排出量の削減	14
② 産業廃棄物排出量の削減	15
(3) 水使用量の削減	16
(4) 物質使用量(購入量)の削減	17
(5) グリーン購入の推進	18
① 事務用品のグリーン購入率の向上	18
② 製造部品のグリーン調達の推進	18
(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進	19
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	19
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無	20
9. 内部監査の実施状況	20
10. 環境教育訓練の実施状況	20
11. 全体の反省と今後の取組	21
12. 代表者による全体評価と見直しの結果	21
13. 地域への貢献	21

# 1. 組織の概要

## (1) 事業所名及び代表者氏名

西部電機株式会社 取締役社長 宮地 敬四郎

## (2) 本社及び支店・営業所所在地

本社	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号	
支店	東京支店	〒136-0071 東京都江東区亀戸二丁目26番11号
	大阪支店	〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目4番5号
営業所	名古屋営業所	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	広島営業所	〒730-0051 広島市中区大手町二丁目2番9号
	九州営業所	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
出張所	札幌出張所	〒060-0033 札幌市中央区北三条東八丁目352番地
サービス センタ	東京サービスセンタ	〒272-0014 千葉県市川市田尻一丁目13番2号
	名古屋サービスセンタ	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	大阪サービスセンタ	〒567-0803 大阪府茨木市中総持寺町1番17号
	九州サービスセンタ	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
工場	本社工場	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

URL : <http://www.seibudenki.co.jp/>

## (3) 環境管理責任者

専務取締役 藤岡 敬正

## (4) 担当者連絡先

生産技術部 生産技術課 課長 小粥 市郎  
事務局 権藤 利佳  
TEL 092-941-1525 FAX 092-941-1520  
E-mail : [ogai-ic@seibudenki.co.jp](mailto:ogai-ic@seibudenki.co.jp)

## (5) 主要な事業内容

事業部門	主要な商品及び事業
搬送機械（マテハン）部門	立体自動倉庫、ケース自動ピッキングシステム、ピースピッキングシステム、FAシステム、搬送・ハンドリングシステム
産業機械部門	バルブアクチュエータ、ゲート駆動装置
精密機械部門	超精密・高精度ワイヤ放電加工機、高精度小形NC旋盤、高精度自由形状研削加工機

## (6) 事業規模

(2015年度実績:2015年4月～2016年3月)

区分	搬送機械	産業機械	精密機械	生産技術部	管理部門	合計
売上高(百万円)	6,629	5,061	5,991	-	-	17,681
従業員数(人) <内支店・営業所>	156 <60>	125 <40>	82 <14>	53	54 <8>	470 <122>
敷地面積	69,207 m <sup>2</sup> (本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタの合計)					

## 2. 対象範囲(認証・登録範囲)

### (1) 対象組織

西部電機株式会社

本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

(従業員数 348 人)

〒 811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

### (2) 対象活動

搬送機械、産業機械、工作機械の製造販売

### (3) 拡大予定事業所

東京支店

大阪支店

名古屋営業所・名古屋サービスセンタ

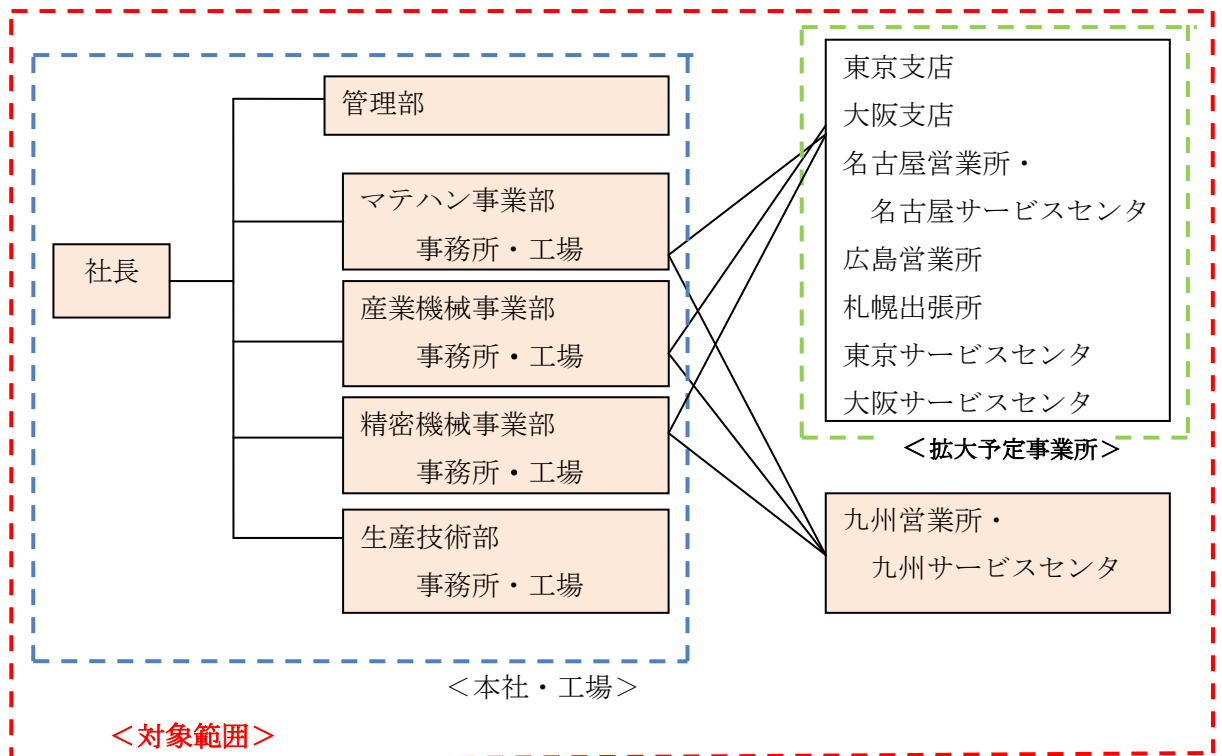
広島営業所

札幌出張所

東京サービスセンタ

大阪サービスセンタ

- ・ 上記事業所は、2015年4月より試行運用を開始し、2016年9月を目途に認証範囲を拡大する予定です。



[全社組織図]

### 3. 環境方針

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用で、メカトロニクス製品を提供し、広く社会に貢献しています。今、地球環境の改善が世界共通の重要課題として認識される中、当社も企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に努めています。今後も「環境と共存する西部電機」を目標に、積極的かつ継続的に改善活動を図ります。

#### 環境スローガン

「未来に残そう豊かな自然」

#### 基本理念

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用と、環境に配慮した企業活動及び社員の行動によって、地球環境の保全と改善を継続的に推進します。

#### 行動指針

1. 企業活動にともなう環境への影響を把握し、環境保護の継続的改善と環境汚染の予防に取り組みます。
2. 環境に関する法規制、条例及び地域との協定などを遵守すると共に、「具体化対策」の策定及び実施により、環境保全の一層の向上に取り組みます。
3. エネルギー消費の削減、特に電力使用量の削減を図り、地球温暖化防止に努めます。
4. 廃棄物の削減と分別回収を図り、再資源化、再使用を推進し、資源の有効活用に努めます。
5. 省エネ、小形軽量化、部品点数の削減等環境に配慮した商品開発を推進します。
6. 化学物質の管理を徹底し、排出や流出などによる環境汚染の防止に努めます。
7. 購買に関しては、環境負荷の少ない資材、設備などグリーン調達を推進します。
8. 環境保護に関する社員教育を実施し、環境保全の意識向上に努めます。
9. 地球社会の一員として、環境保全の責任を果たし、安全で快適な地域社会づくりに貢献します。
10. 資源である水の有効利用を推進するため、節水に努め、水使用量の削減に努めます。

制定日 2012年9月25日

改定日 2013年7月 1日

西部電機株式会社

取締役社長

宮地 敬四郎

## 4. 環境目標

- 当社では、2012年10月よりエコアクション21の取組を開始し、2013年9月認証を取得、その活動を維持継続するため、2015年度の環境目標を次のように策定しました。
- 今年度より、2016年9月の認証拡大を目指し、各支店・営業所分も、2014年度データを基に目標を策定、併せて全社としての目標も策定しました。
- 今年度より、すべての環境負荷値について基準年を2014年度に変更し、排出量を売上高で除した値を基に毎年1%の追加削減目標を設定しました。

### ① 環境目標（全社）

（事業年度：4月～翌年3月）

項目	単位	基準年	単年度目標		中長期目標			
		2014年度 (実績値)	2015年度		2017年度 (3年後目標)		2019年度 (5年後目標)	
(1) 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	252	249	(△1%)	242	(△3%)	237	(△5%)
①電力使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	219	217	(△1%)	210	(△3%)	206	(△5%)
②ガソリン使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	18.6	18.4	(△1%)	17.8	(△3%)	17.5	(△5%)
③その他の化石燃料の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	14.1	13.8	(△1%)	13.6	(△3%)	13.3	(△5%)
(2) 廃棄物排出量の削減								
①一般廃棄物の削減	kg/ 百万円	2.16	2.14	(△1%)	2.08	(△3%)	2.03	(△5%)
②産業廃棄物の削減	kg/ 百万円	10.45	10.34	(△1%)	10.03	(△3%)	9.82	(△5%)
(3) 水使用量の削減	m <sup>3</sup> / 百万円	0.52	0.52	(△1%)	0.49	(△3%)	0.48	(△5%)
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/ 百万円	8.58	8.50	(△1%)	8.24	(△3%)	8.07	(△5%)
(5) グリーン購入の推進								
①事務用品のグリーン購入率向上	%	81	82		84		87	
(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進								
①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	461		475		484	
②環境に配慮した製品の開発	件	-	9		12		14	
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する					

備考) ・ 二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。

… 東京電力㈱ 0.521 中部電力㈱ 0.509 関西電力㈱ 0.516 中国電力㈱ 0.706 九州電力 0.617 kg-CO<sub>2</sub>/kWh

・ ( ) は基準年に対する削減率を示す。

・ 基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。

・ その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。

・ 環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2015年度経営計画を基に作成した。

・ グリーン購入率=グリーン購入品目数/全体の購入品目数\*100とする。

・ グリーン購入品とは、環境対応商品と明記してあるものを言う。

・ 環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。

・ 表中の - は非該当を示す。

## ② 環境目標(本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ)

(事業年度:4月～翌年3月)

項 目	単位	基準年	単年度目標			中長期目標			
		2014年度 (実績値)	2015年度			2017年度 (3年後目標)		2019年度 (5年後目標)	
(1) 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	227	224	(△1%)	218	(△3%)	213	(△5%)	
①電力使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	212	209	(△1%)	203	(△3%)	199	(△5%)	
②ガソリン使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	6.5	6.4	(△1%)	6.2	(△3%)	6.1	(△5%)	
③その他の化石燃料の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	8.8	8.5	(△1%)	8.5	(△3%)	8.3	(△5%)	
(2) 廃棄物排出量の削減									
①一般廃棄物の削減	kg/ 百万円	1.87	1.83	(△1%)	1.80	(△3%)	1.76	(△5%)	
②産業廃棄物の削減	kg/ 百万円	10.00	9.90	(△1%)	9.60	(△3%)	9.40	(△5%)	
(3) 水使用量の削減	m <sup>3</sup> / 百万円	0.47	0.47	(△1%)	0.45	(△3%)	0.44	(△5%)	
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/ 百万円	8.32	8.23	(△1%)	8.0	(△3%)	7.82	(△5%)	
(5) グリーン購入の推進									
①事務用品のグリーン購入率の向上	%	81	82		85		88		
(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進									
①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	462		476		485		
②環境に配慮した製品の開発	件	-	9		12		14		
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する						

- 備考)
- ・ 二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の、九州電力㈱の実排出係数 0.617kg-CO<sub>2</sub>/kWhを用いた。
  - ・ ( )は基準年に対する削減率を示す。
  - ・ 基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
  - ・ その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
  - ・ 環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2015年度経営計画を基に作成した。
  - ・ グリーン購入率=グリーン購入品目数/全体の購入品目数\*100とする。
  - ・ グリーン購入品とは、環境対応商品と明記してあるものを言う。
  - ・ 環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。
  - ・ 表中の - は非該当を示す。

### ③ 支店・営業所・サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標		
		2014年度 (実績値)	2015年度	2017年度 (3年後目標)	2019年度 (5年後目標)	
(1) 二酸化炭素排出量の削減	① 二酸化炭素排出量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	25.1	24.8 (△1%)	24.3 (△3%)	23.8 (△5%)
		東京	3.45	3.42	3.35	3.28
		東サ	8.14	8.06	7.90	7.73
		大阪	1.61	1.59	1.56	1.53
		大サ	4.16	4.12	4.04	3.95
		名古屋	6.55	6.48	6.35	6.22
		広島	1.19	1.18	1.15	1.13
	② ガソリン使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	7.67	7.60 (△1%)	7.44 (△3%)	7.29 (△5%)
		東京	2.05	2.03	1.98	1.94
		東サ	1.68	1.66	1.63	1.59
		大阪	0.75	0.74	0.73	0.71
		大サ	0.74	0.73	0.72	0.70
		名古屋	1.53	1.52	1.49	1.46
		広島	0.92	0.91	0.90	0.88
	③ その他の化石燃	支店・営業所・サービスセンタ 計	12.1	12.0 (△1%)	11.8 (△3%)	11.4 (△5%)
		東京	1.41	1.39	1.37	1.34
		東サ	2.21	2.18	2.14	2.10
		大阪	0.86	0.85	0.83	0.81
		大サ	2.74	2.71	2.65	2.60
名古屋		4.65	4.61	4.51	4.42	
広島		0.26	0.26	0.26	0.25	
(2) 廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,399	4,355 (△1%)	4,267 (△3%)	4,179 (△5%)
		東京	1,261	1,248	1,223	1,197
		東サ	445	441	432	423
		大阪	1,086	1,075	1,053	1,032
		大サ	892	883	865	847
		名古屋	478	473	464	454
		広島	238	235	230	226
	② 産業廃棄物の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	6,885	6,816 (△1%)	6,678 (△3%)	6,540 (△5%)
		東京	3,620	3,584	3,511	3,439
		東サ	1,515	1,499	1,469	1,439
名古屋	1,750	1,733	1,698	1,663		
(3) 水使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	518	513 (△1%)	503 (△3%)	493 (△5%)	
	東京	-	-	-	-	
	東サ	211	209	205	201	
	大阪	-	-	-	-	
	大サ	124	122	118	118	
	名古屋	183	179	174	174	
	広島	-	-	-	-	
(4) 物質購入量(紙使用)の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,024	3,984 (△1%)	3,903 (△3%)	3,823 (△5%)	
	東京	1,231	1,219	1,194	1,169	
	東サ	806	798	782	766	
	大阪	791	783	767	751	
	大サ	477	472	463	453	
	名古屋	590	584	572	561	
	広島	129	128	125	122	
(5) グリーン購入の推進	事務用品グリーン購入率の向上(全社共通)	%	81	82	85	88

備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。  
 ・東京電力(株) 0.521 中部電力(株) 0.509 関西電力(株) 0.516 中国電力(株) 0.706 kg-CO<sub>2</sub>/kWh  
 ・( )は基準年に対する削減率を示す。  
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。  
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。  
 ・グリーン購入率=グリーン購入品目数/全体の購入品目数\*100とする。  
 ・グリーン購入品とは、環境対応商品と明記してあるものを言う。  
 ・東京サービスの基準年水使用量に関しては、水もれが発生しているため、推定値で示した。  
 ・札幌出張所は、東京支店に含む。  
 ・表中の各サイトの略称は、下記の通りである。  
 東京 … 東京支店、東サ … 東京サービスセンタ、大阪 … 大阪支店、大サ … 大阪サービスセンタ  
 名古屋 … 名古屋営業所・名古屋サービスセンタ、広島 … 広島営業所  
 ・表中の - は不明又は非該当を示す。



## 5. 環境活動計画

- 2015年度の環境活動計画は、以下のとおりです。
- なお、ここでは、「本社・工場」は「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」を、「支・営・サ」は拡大予定のその他の支店・営業所・サービスセンタを示しています。

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○
		エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○
		毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○
		気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	-
		エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20℃にする。	-	○
		精密工場の温度設定を夏期24℃、冬期20℃にする。	○	○
②	ガソリン使用量の削減	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
		計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○
③	その他の化石燃料の削減	軽油使用量の削減	○	○
		ガス使用量の削減	○	-
		精密工場の温度、湿度の制御方法を見直し、削減を図る。	○	-

### (2) 廃棄物排出量の削減

#### ① 一般廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
ア	生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○
イ	シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-

#### ② 産業廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
ア	廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	-
イ	廃油の削減	分別表示を行い、分別を徹底させる。	○	○ (サ・ビスのみ)
ウ	廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	-

### (3) 水使用量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	日常生活水の削減	節水ペーパーを奨励、節水を意識させる。	○	○

### (4) 物質使用量(購入量)の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	木材、ダンボール、紙使用の削減	毎月購入量を集計し、EA21委員会にて報告、廃棄量と合わせて、削減案立案に向け分析する。	○	○ (紙のみ)

\* - は非該当

## (5) グリーン購入の推進

### ① 事務用品のグリーン購入率の向上

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 事務用品のグリーン購入	データの収集、EA21委員会にて報告。	○	○
	上長承認時にチェック。	○	○

### ② 製造部品のグリーン調達の推進

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 環境に優しいメッキの使用	6価クロム、メッキを、3価クロムメッキへ変更の維持(マテハン事業部で使用のボルトナット類をすべて3価クロムに変更、これを維持、管理する。又、その他の部品に関しても、積極的に3価クロム化を推進し、状況を、毎月EA21委員会にて報告する。	○	-

## (6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3カ月に一度)及び活動の推進。	○	○
② 環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○	-

## (7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○	-

## (8) その他

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 内部監査の実施	内部監査計画書に基づき年に1度内部監査を行う。支店・営業所・サービスセンタは、必要書類の作成を行う。	○	
② 教育訓練の実施	教育訓練計画書に基づき、定期的に教育訓練を行い、エコアクション21の全社員への浸透を図る。	○	○

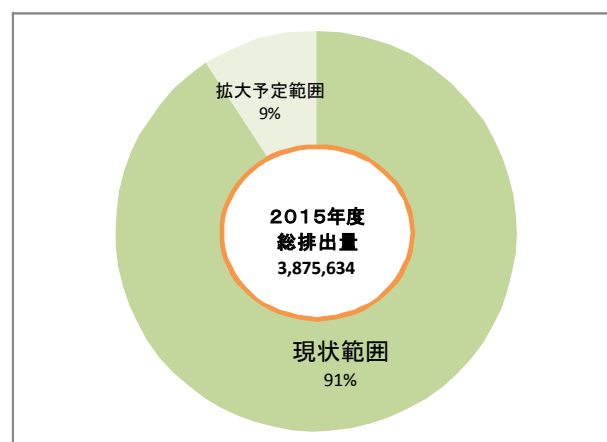
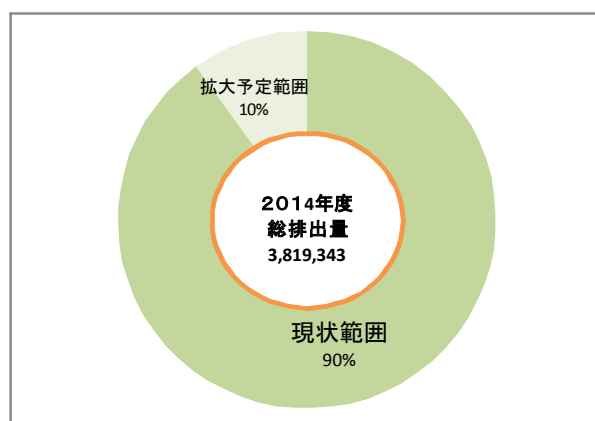
\* - は非該当

## 6. 現状負荷の実績とサイト別排出特性

- 当社の主要環境負荷（CO<sub>2</sub> 排出量、廃棄物排出量、水使用量（総排水量））のサイト別排出構造は、以下のとおりです。
- いずれの環境負荷も現状範囲「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」が全社の約 9 割を占めており、拡大予定範囲（その他の「支店・営業所・サービスセンタ」）については、1 割前後で小さいという排出特性をもっています。

### (1) 二酸化炭素排出量

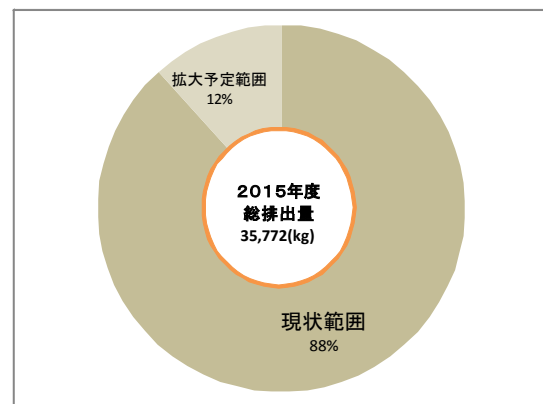
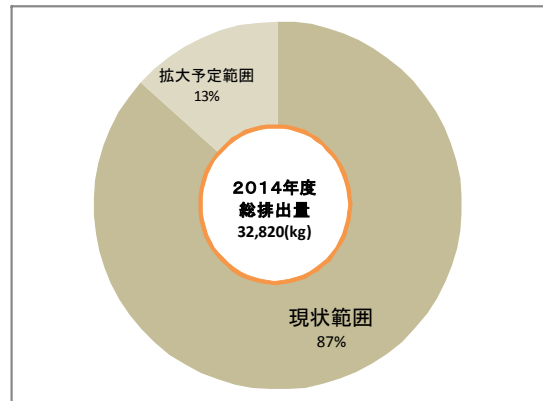
サイト名	2014年度		2015年度		
	実績 (kg-CO <sub>2</sub> )	構成比	実績 (kg-CO <sub>2</sub> )	構成比	
現状範囲 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	3,439,027	89%	3,518,255	91%	
拡大予定範囲	東京支店・札幌出張所	52,373	1%	50,468	1%
	東京サービスセンタ	123,436	3%	115,357	3%
	大阪支店	24,392	1%	24,041	1%
	大阪サービスセンタ	63,075	2%	61,254	2%
	名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	99,254	3%	89,622	2%
	広島営業所	17,786	0%	16,638	0%
	拡大予定範囲計	380,317	10%	357,379	9%
全社合計	3,819,343	100%	3,875,634	100%	



## (2) 廃棄物排出量

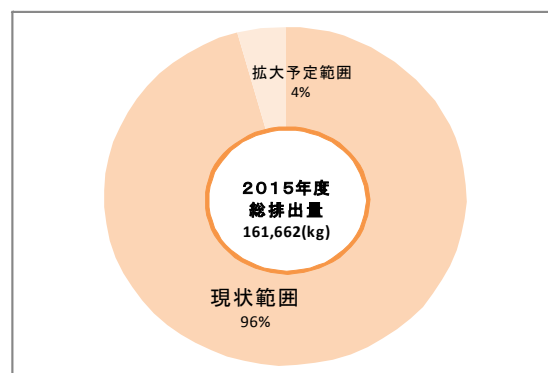
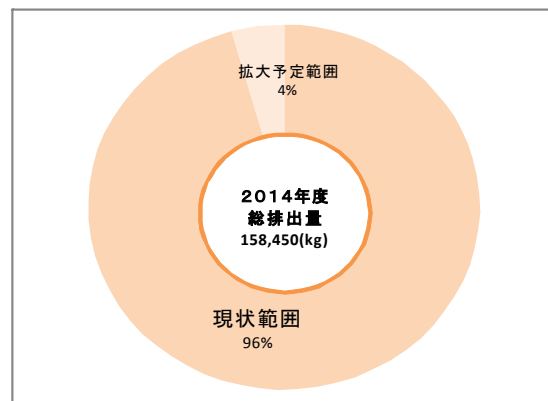
### ①一般廃棄物排出量

部署名		①一般廃棄物			
		2014年度		2015年度	
		実績(kg)	構成比	実績(kg)	構成比
現状範囲	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	28,424	87%	31,601	88%
	拡大予定範囲				
拡大予定範囲	東京支店・札幌出張所	1,261	4%	867	2%
	東京サービスセンタ	445	1%	436	1%
	大阪支店	1,086	3%	1,110	3%
	大阪サービスセンタ	892	3%	901	3%
	名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	478	1%	589	2%
	広島営業所	238	1%	277	1%
	<b>拡大予定範囲計</b>	<b>4,399</b>	<b>13%</b>	<b>4,180</b>	<b>12%</b>
<b>全社合計</b>	<b>32,820</b>	<b>100%</b>	<b>35,772</b>	<b>100%</b>	



### ②産業廃棄物排出量

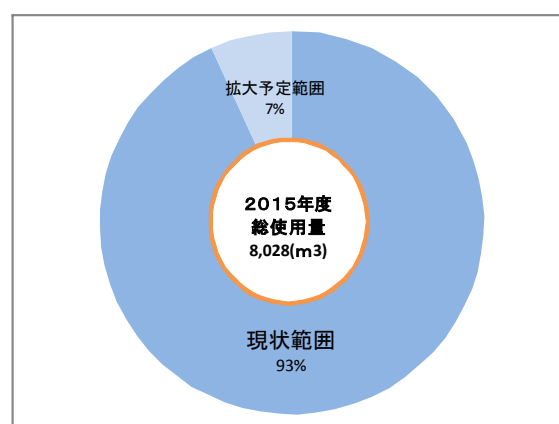
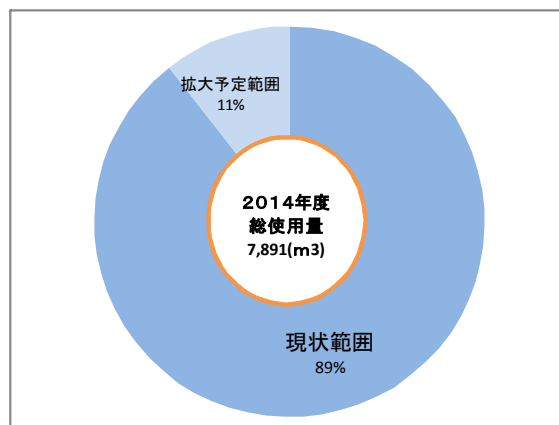
部署名		②産業廃棄物			
		2014年度		2015年度	
		実績(kg)	構成比	実績(kg)	構成比
現状範囲	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	151,561	96%	154,780	96%
	拡大予定範囲				
拡大予定範囲	東京支店・札幌出張所	0	0%	0	0%
	東京サービスセンタ	3,620	2%	1,660	1%
	大阪支店	0	0%	0	0%
	大阪サービスセンタ	1,515	1%	92	0%
	名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	1,750	1%	5,150	3%
	広島営業所	0	0%	0	0%
	<b>拡大予定範囲計</b>	<b>6,885</b>	<b>4%</b>	<b>6,882</b>	<b>4%</b>
<b>全社合計</b>	<b>158,450</b>	<b>100%</b>	<b>161,662</b>	<b>100%</b>	



### (3) 水使用量の削減

部署名	水使用量				
	2014年度		2015年度		
	実績(m <sup>3</sup> )	構成比	実績(m <sup>3</sup> )	構成比	
現状範囲	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	7,056	89%	7,476	93%
拡大予定範囲	東京支店・札幌出張所	-	-	-	-
	東京サービスセンタ	528	7%	246	3%
	大阪支店	-	-	-	-
	大阪サービスセンタ	124	2%	134	2%
	名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	183	2%	172	2%
	広島営業所	-	-	-	-
	拡大予定範囲計	835	11%	552	7%
全社合計	7,891	100%	8,028	100%	

\* - は不明



\* 支店・営業所・サービスセンタとのテレビ会議の様子。



\* 支店・営業所・サービスセンタの朝礼の様子。

\* 会議での決定事項を、朝礼等で、連絡し、情報の伝達と、徹底を行っています。

## 7. 環境目標の実績と環境活動計画の取組結果及びその評価、今後の取組

- 今回は2015年度（2015年4月～2016年3月）における環境への取組状況を現状対象（本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ）、拡大予定対象（支店・営業所・サービスセンタ）及び全社に区分して整理、評価しました。
- 原単位表記した環境目標については、期間内の売上高で実績値を計算しています。

### <環境目標の実績（全社）>

- 環境目標の達成実績（全社）は以下のとおりです。設定した7項目（サブ含め12項目）のうち、事務用品のグリーン購入率の向上と環境に配慮した製品の開発の2項目が達成できませんでしたが、他の項目は達成できました。

事業年度は4月から翌年3月

項目	単位	基準年	2015年度(2015年4月～2016年3月)				排出量及び使用量(購入量)実績		
		2014年度(実績値)	目標値	実績値	目標達成率	達成状況判定	単位	2014年度	2015年度
(1) 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	252	249	219	114%	○	kg-CO <sub>2</sub>	3,819,343	3,875,634
①電力使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	219	217	193	112%	○		3,322,866	3,410,513
②ガソリン使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	18.6	18.4	15.5	119%	○		281,913	273,311
③その他の化石燃料の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	14.1	13.8	10.8	127%	○		214,565	191,811
(2) 廃棄物排出量の削減									
①一般廃棄物の削減	kg/百万円	2.16	2.14	2.02	106%	○	kg	32,931	35,780
②産業廃棄物の削減	kg/百万円	10.45	10.34	9.14	113%	○		158,450	161,662
(3) 水使用量の削減	m <sup>3</sup> /百万円	0.52	0.52	0.45	113%	○	m <sup>3</sup>	7,574	8,028
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/百万円	8.58	8.50	8.18	104%	○	kg	130,133	144,699
(5) グリーン購入の推進									
①事務用品のグリーン購入率の向上	%	81	82	77.1	94%	×	品目	-	3,088
(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進									
①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	533	461	496	103%	○	件	461	496
②環境に配慮した製品の開発	件	5	9	7	78%	×	件	9	7
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	2016年6月届出予定			○	-	-	-

- 環境目標毎にとりまとめた目標達成状況の詳細と、それに対応した取組活動の実施状況、その評価と今後の取組方針は以下に示すとおりです。

## (1) 二酸化炭素排出量の削減

環境目標、活動計画ともに目標を達成しており、各職場で管理徹底されています。精密機械部門工場の温湿度コントロールや外気取り入れに関しては、エコアクション21の活動を通してある程度効果的な調節の仕方が分かってきました。来年度は、設定温度の見直しなど、一歩進んだ温湿度管理を目指し活動して行きます。また、支店・営業所・サービスセンタに関しては、試行運用期間として毎月の電力使用量の掲示を行うなど、意識付けを中心に活動を行ってきました。今後も継続して行きます。

### <環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度 (2015年4月～2016年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2014年度 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	2015年度 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	
		2014年度 実績値	目標値	実績値					
本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	227	224	199	113%	○	3,439,027	3,518,255	
支店・営業所・サービスセンタ		25.1	24.8	20.2	123%	○	380,317	357,379	
全 社		252	249	219	114%	○	3,819,343	3,875,634	
① 電力使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	211	209	187	112%	○	3,206,769	3,297,793	
		支店・営業所・サービスセンタ	7.7	7.6	6.4	119%	○	116,097	112,719
		全 社	219	217	193	112%	○	3,322,866	3,410,513
② ガソリン使用量の削減	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	6.5	6.4	5.7	112%	○	98,067	101,436	
		支店・営業所・サービスセンタ	12.1	12.0	9.7	123%	○	183,846	171,875
		全 社	18.6	18.4	15.5	119%	○	281,913	273,311
③ その他の化石燃料の削減	九州サービスセンタ 本社・工場・営業所	都市ガス	7.4	7.3	5.6	131%	○	112,575	99,062
		液化石油ガス(LPG)	0.9	0.9	1.0	96%	×	14,073	16,908
		軽 油	0.5	0.25	0.17	143%	○	7,542	3,055
		計	8.8	8.5	6.7	126%	○	134,191	119,026
	支店営業所・サービスセンタ	5.3	5.2	4.1	127%	○	80,374	72,785	
	全 社	14.1	13.8	10.8	127%	○	214,565	191,811	

備考) ・2015年度の生産高(売上高)は、17,681百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない

## <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目		具体的な取組活動	実施状況判定		
			本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
①	電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)については、各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○	○
		エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○	○
		毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○	○
		気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	○	○
		エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20℃にする。	-	○	○
		精密工場の温度設定を夏期24℃、冬期20℃にする。(6月より実施)	○	○	○
②	ガソリン使用量の削減	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○	○
		計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○	○
③	その他の化石燃料の削減	軽油使用量の削減	○	○	○
		ガス使用量の削減	○	-	○
		精密工場の温度、湿度の制御方法を見直し、削減を図る。	○	-	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない  
- :非該当

## (2) 廃棄物排出量の削減

### ①一般廃棄物排出量の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、排出量は、前年より増加しています。要因は、生産量の増加によるものですが、削減に繋がる効率の良い分別の仕方を検討していきます。

また、支店・営業所・サービスセンタに関しては、活動を開始するにあたり廃棄の方法など個別に調査したところ、契約業者によるまとめ引取りが主であることが分かり、引取り後のリサイクルは確実に行われていることを確認しました。よって、今後は、分別の徹底と意識付けを中心に活動していきます。

## <環境目標の達成状況>

環境目標項目		単位	基準年	2015年度 (2015年4月～2016年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2014年度排 出量(kg)	2015年度排 出量(kg)
			2014年度 実績値	目標値	実績値				
① 一般廃棄物排出量の削減	九州サービスセンタ 本社・工場・	生ごみ・その他	1.59	1.52	1.49	103%	○	24,114	26,274
		シュレッダー屑	0.02	0.04	0.07	56%	×	344	1,252
		OA用紙	0.203	0.201	0.169	119%	○	3,080	2,990
		飲料缶、ビン	0.003	0.003	0.003	92%	×	46	50
		その他不燃ごみ	0.014	0.014	0.013	106%	○	216	235
		新聞・雑誌	0.048	0.048	0.045	105%	○	730	800
		計	1.88	1.86	1.79	104%	○	28,532	31,601
	支店・営業所・サービスセンタ	kg	4,399	4,355	4,180	104%	○	4,399	4,180
全社	kg/百万円	2.16	2.14	2.02	106%	○	32,931	35,780	

備考) ・2015年度の生産高(売上高)は、17,681百万円として計算しました。  
・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。  
・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない  
・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。



## <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
ア 生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をE21委員会にて報告する。 (各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○	○
イ シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。 又月々の廃棄量をE21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋 の個数を把握し報告)	○	-	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○: もれなく行われた △: ほぼもれなく行われた ×: 行われたとは言えない  
-: 非該当



\* 事務所内でのシュレッダー屑の分別

## ② 産業廃棄物排出量の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、排出量は、前年より増加しており、特にダンボールは、目標を達成できていません。要因は、マテハン事業部、精密機械事業部の生産量の増加によるものではありませんが、増減の要因をより詳しく検証していきます。

また、支店・営業所・サービスセンタに関しては、少量ですが、客先からの持ち帰りなどでスポット的に発生することが確認できています。廃油に関しては、本社同様、有価買取が行われているサイトもあるので、少量でも確実に広げていきます。

## <環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度 (2015年4月～2016年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2014年度排 出量(kg)	2015年度 排出量(kg)	
		2014年度 実績値	目標値	実績値					
② 産業 廃棄物 排出量 の削減	九州サ ービス セン タ 本 社・ 工 場・ 支 店・ 営 業 所・ サ ー ビ ス セ ン タ	kg/百万円	2.2	2.2	1.9	111%	○	33,099	34,411
			3.4	3.4	2.9	119%	○	51,888	50,439
			3.1	3.1	2.4	128%	○	47,374	42,610
			1.3	1.3	1.5	81%	×	19,200	27,320
			計	10.0	9.9	8.8	113%	○	151,561
支店・営業所・サービスセンタ	kg	6,885	6,816	6,882	99%	×	6,885	6,882	
全 社	kg/百万円	10.45	10.34	9.14	113%	○	158,450	161,662	

備考) ・2015年度の生産高(売上高)は、17,681百万円として計算しました。

- ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
- ・判定区分 ○: 達成できている ×: 達成できていない
- ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

## <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
ア 廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	○	○
イ 廃油の削減	分別表示を行い、分別を徹底させる。	○	○	○
ウ 廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木パレットに関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

## (3) 水使用量の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、使用量は前年より増加しています。要因としては、生産量の増加もありますが、精密工場の空調システムの調整が水利用にも影響するため注意して調整していきます。また、電力などと同様に、工場毎の使用量や、新設された多目的工場の使用量の動向にも注意して活動を行っていきます。

## <環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度 (2015年4月～2016年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2014年度 使用量 (m <sup>3</sup> )	2015年度 使用量 (m <sup>3</sup> )	
		2014年度 実績値	目標値	実績値					
① 水 使用 量 の 削 減	本社・工場・九州営業所・ 九州サービスセンタ	m <sup>3</sup> /百万円	0.47	0.46	0.42	109%	○	7,056	7,476
	支店・営業所・サービスセンタ	m <sup>3</sup>	518	513	552	93%	×	518	552
	全 社	m <sup>3</sup> /百万円	0.52	0.52	0.45	113%	○	7,574	8,028

備考) ・2015年度生産高(売上高)は、17,681百万円として計算しました。  
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。  
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない  
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

## <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
① 日常生活水の削減	節水シールを貼り、節水を意識づける。	○	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

#### (4) 物質使用量（購入量）の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、購入量は全体で前年より増加しています。木材、ダンボールの増加の要因としては、生産量の増加、特に、マテハン事業部の生産量の増加が影響していますが、部門ごとの使用量を詳しく調査し、削減に繋げていきます。また、紙の使用量も増加しており、まず、どのような場合により多く紙を使用しているかを調査し、委員会等で発信することで、各人の意識付けを図ります。

##### <環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度 (2015年4月～2016年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2014年度 使用量(kg)	2015年度 使用量(kg)		
		2014年度 実績値	目標値	実績値						
		① 物質使用量の削減	九州サービスセンター 本社・工場・	木材					kg/百万円	4.47
		ダンボール	kg/百万円	3.28	3.24	2.61	124%	○	49,679	46,204
		紙	kg/百万円	0.57	0.57	0.54	105%	○	8,688	9,509
		計	kg/百万円	8.32	8.23	7.95	103%	○	126,109	140,648
		支店・営業所・サービスセンター	kg	4,024	3,984	4,051	98%	×	4,024	4,051
		全社	kg/百万円	8.58	8.50	8.18	104%	○	130,133	144,699

備考) ・2015年度生産高(売上高)は、17,681百万円として計算しました。

- ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
- ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない
- ・支店・営業所・サービスセンターに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

##### <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
① 木材、ダンボール、紙使用の削減	使用量を毎月EA21委員会で報告し、増減の傾向や理由を把握して削減を図る。	○	○	○

備考) 実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

## (5) グリーン購入の推進

### ① 事務用品のグリーン購入率の向上

環境目標を達成できませんでした。今後は、より詳しく購入内容を分析し、どのような物が、グリーン商品に変更可能か、価格の差はどのくらいかなどの情報を、委員会で発信していきます。

#### <環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度 (2015年4月～2016年3月)		目標 達成率	達成状況 判定	2015年度グ リーン購入 品目数	2015年度グ リーン購入 品目数	
		2014年度 実績値	目標値	実績値					
① 事務用品のグリーン購入率の向上	本社・工場・九州営業所 ・九州サービスセンタ	%	81.3		79.3	97%	×	2,084	2,243
	支店・営業所・サービスセンタ		-	82.0	72.0	88%	×	-	845
	全社		-		77.1	94%	×	-	3,088

備考) ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

#### <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
① 事務用品のグリーン購入	データの収集、EA21委員会にて報告。	○	○	○
	上長承認時にチェック。	○	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

### ② 製造部品のグリーン調達への推進

2013年度より、数値目標による評価は廃止しましたが、環境活動計画は継続しています。

#### <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況 判定
① 製造部品のグリーン調達 (環境に優しいメッキの使用)	6価クロム、メッキを、3価クロムメッキへ変更の維持(マテハン事業部で使用のボルトナット類をすべて3価クロムに変更、これを維持、管理する。又、その他の部品に関しても、積極的に3価クロム化を推進し、状況を、毎月EA21委員会にて報告する。	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

## (6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

### ① 環境改善活動 (QC, VE, IE) の完結報告

環境改善活動は、環境目標を達成できました。今年度より、年間目標だけでなく半年毎の目標を立て活動を行いました。上半期も年度も、目標を達成できています。今後も、各改善活動の事務局と連携をとって進捗管理を行い、活動を進めていきます。

### ② 環境に配慮した製品の開発

環境配慮製品の開発に関しては、今年度9件着手し、7件完了しましたが、結果的には目標を達成できませんでした。未完の件に関しては、次年度も開発を継続します。今後も、改善活動の事務局や事業部と連携を取り、目標を達成できるようフォローしていきます。

#### <環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度(2015年4月～2016年3月)						目標達成率	達成状況判定
		2014年度実績値	上半期		下半期		年度計			
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
① 環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告件数	件	533	291	205	187	291	478	496	103%	○
② 環境配慮製品の開発	件	5	\	\	\	\	9	7	78%	×

・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

#### <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定
① QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3カ月に一度)及び活動の推進。	○
② 環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

## (7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

環境目標を達成できました。今後も法令に基づき、毎年6月に使用量の届出を行うと共に、四半期毎に使用量を集計し、管理を行っていきます。

#### <環境目標の達成状況>

- PRTR制度対象物質の適正使用に関して、データ収集し、2016年6月に使用量届出を行う予定です。

#### <環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定
① 化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○ 6月提出予定

## 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無

- 当社に関する環境関連法規等の遵守事項は、以下のとおりであり、2015年度遵守状況を確認した結果、法令違反等はありませんでした。
- また、関連機関や利害関係者からの違反指摘や訴訟等は、過去3年間ありませんでした。

主な環境関連法規	主な遵守事項
廃棄物処理法	マニフェストの発行、保管
フロン排出抑制法	許可業者への委託及び定期点検の実施
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量を年に1度6月に届出する

## 9. 内部監査の実施状況

- 外部審査に先立って、環境管理システム全体の状況を内部監査した結果、環境への取組についてのガイドラインで規定する要求事項に適合していることを確認しました。
- 結果を代表者に報告し、環境管理責任者の指示を受け、弊社独自の「環境経営マニュアル」を事務局にて作成し、各委員に配布しました。なお、各部署で誰でもすぐに関覧できる場所に保管し、教育等の際に役立てるよう指示しています。

## 10. 環境教育訓練の実施状況

- 教育訓練計画書に基づき全社員対象に以下の内容で教育訓練を行いました。

2015年	4月	・・・	エコドライブについて（車両運転者向け）
2015年	4月	・・・	環境経営システムの概要（新入社員向け）
2015年	8月	・・・	エコアクション21の概要 (現場管理職向け)
2015年	9～10月	・・・	環境活動レポートの説明及び 2015年度活動中間報告（全社員向け）
2015年	11月	・・・	内部監査員教育

## 11. 全体の反省と今後の取組

エコアクション21の活動開始から4年が経過し、今年度は、2016年度の認証範囲拡大を目指し活動してきました。活動を通して、各サイトよりのデータ収集により現状を把握することができ、今後の取組に生かしていきます。また、全体としては、生産量（売上）の増加にもかかわらず、ほとんどの項目で目標を達成することが出来ましたが、各排出量は増加しています。さらに抑える努力が必要であること、また全社員の環境に対する意識を向上させる必要があることから、今後は、各部署から改善提案を行ってもらい、より全社的な活動に結び付けていきます。

## 12. 代表者よる全体評価と見直しの結果

環境経営システムは有効に機能し、取組は適切に実施されています。事務用品のグリーン購入率の向上と環境配慮製品の開発が未達成ではありますが、他はすべて達成しており、環境活動の取組は定着しています。

なお、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水使用量さらに物質購入量の目標値は売上高の増減で変動しますので、総量を含めた評価も併用すべきです。

また、弊社独自の取組として、設計段階、製造段階において、部品点数の削減等、環境負荷の低減に資する工夫を評価されるべきであり、今後目標化に向けた検討を行って下さい。

## 13. 地域への貢献

- 会社周辺の清掃活動など、積極的に地域貢献を行っています。



\* 年末の会社周辺の清掃の様子